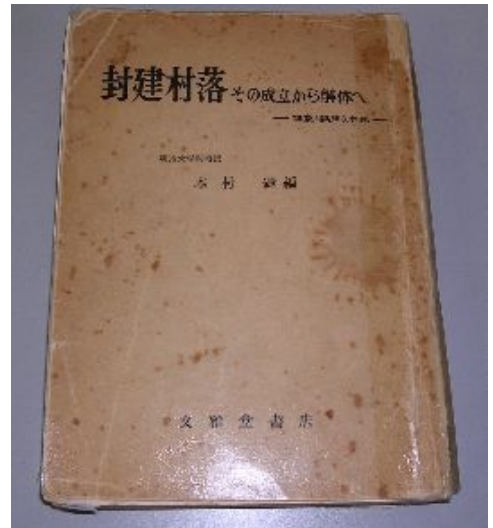


## 津久井の古文書・公文書（前編）

市史編さん室特別顧問 神崎 彰利

本誌第31号(2006.5)に「津久井のこと」を書きましたが、本号には津久井の古文書(こもんじょ)・公文書(こうぶんじょ)についての感想めいたことを書きます。

第31号にも触れましたが、私と津久井との関係は1952(昭和27)年から現在まで続いています。津久井へ入った最初は、明治大学日本史専攻2年当時で、日本史研究室による津久井郡の古文書調査のため、与瀬の慈眼寺で8月5日～12日までの自炊合宿をし、旧与瀬村の古文書探訪・整理・目録作成をしました。これを契機とし、以後1957年に至る間、旧29か村の旧名主家に伝わる古文書＝地方文書(じかたもんじょ)の徹底した調査を実施し、現存古文書の90%程の古文書確認とその目録作成をし、また調査・研究の一端として、研究室から『封建村落 その成立から解体へ—神奈川県津久井郡—』(写真)を刊行しました。



こうした歴史研究上の地方文書の調査は、全国的にみても最も早期のことで、また一郡を調査対象としたのはこれがはじめてです。旧名主家を訪問し、古文書の有無の確認から始まりますが、大部分の方々は、そんな古い書付は家には無い、とのお答がほとんどでした。しかしこんなことから始まったのですが、最終的な結果を結論的に言いますと、津久井の古文書は、県内では質・量共に最もすぐれたもので、津久井は古文書の宝庫であると言われています。

名主家に伝わる古文書の伝存状況は、家々によって千差万別でしたが、全般としてご当主がその所在を確認されていなかった例が多いわけですから、完全な保管などはごく例外で、たまたま土蔵の二階の最も風通しのよい所に積まれていたという偶然性が強く、多くは湿気・虫害で損傷し、全く開くことの不可能なものも多々ありました。結果として、いかにも悪い伝存といえますが、しかしこれは当然のこととして、現在のように、全国的に地誌の編さんが進展している時期とは違いますので、この当時に古文書を完全に保管する事例はごく少なく、津久井に見られる古文書の保存状況は全国に共通した現実です。私たちの調査は古文書を通しての歴史研究ではなく、上記のような現実において、今で言えば文化遺産(当時はこの表現はなお未成熟)としての古文書の探訪・整理・目録作成と保管をいかにするかが第一義のことでした。津久井の古文書調査は、こんなところから始まったのです。

当時の歴史研究の一端をみますと、地方文書は研究資料の対象外でして、これが古文書学として第一歩を印したのは1989（平成元）の日本歴史学会編『概説 古文書学 近世編』で、私も地方文書の一部を執筆しました。こうした状況ですから、古文書より新しい、通常いう公文書について云々されることはごくまれなことであり、これが歴史研究上特に論じられるようになったのは、全国的な自治体誌編さんの進展の結果です。私は1872（明治5）年以後、戸長役場等で作成された公的な行政文書を公文書（こうぶんしょ）としていますが（前記古文書学）、前の相模原市史の時にはその徹底調査はしていませんので、今回の新たな市史編さんがその最初となります。そしてはからずも、津久井との合併により、津久井の公文書にふれることになりました。前記津久井調査の段階では、正直いって公文書は調査対象外でしたし、必要上町役場へ閲覧をお願いしたところ、文字通りけんもほろろで、閲覧の申し入れ自体が不思議だと言われました。これも当時の全国的な風潮でした。

今回の合併を機会に、市史編さん室長と主幹に従って、三度にわたって旧4町保管の公文書を目にしました。目にしたと言うのは、主に段ボール箱に積み込んだ状況を見たということで、内容は全く未見です。この公文書調査については主幹の報告書等がありますが、三度の見学でいくつかの感想が出ました。一つは、既に県史の調査結果で言われたことで、津久井の公文書は県内でも有数なものである、という評価で、私は段ボール箱の山を見たとき、これがその現物なのか、ということでした。ともかく大量です。もうひとつの感想として、その保管状況についてで、この保管では大変だということでした。場所によっては湿気も多く、劣悪な現状でもありましたが、しかし個人による古文書の保管に比べると、さすがに行政による保管ですから、古文書とは比べるべくも無いほどに良好でした。しかし結論としては、これでは早晚限界が来る、ということでした。古文書は和紙ですから繊維が強いのに対して、公文書の紙質はご承知の通りですし、早々の手当てが必要となります。近現代の行政は、すぐれた文化遺産の一つとして大量な公文書を現在に伝え、そして私たちに対して、その後世への引継ぎはお前たちの責任である、と言っているようです。私たちは、大きな課題を突きつけられているのです。（次号へ続く）



## 相模原市史関係刊行物

2006（平成18）年度は、以下の2点を刊行しました。

### 「相模原市史ノート第4号」 価格600円

主な内容・相模原市磯部山谷（勝坂）遺跡出土の土版状土製品について、神奈川県相模原市当麻における初午の稲荷祭祀、上溝夏祭りと相模原市の天王信仰、建築文化からみた相模原と津久井、カモの渡りと気温

### 「相模原市史調査報告書1

#### 旧石器時代遺跡資料調査報告書」 価格1,400円（写真）

主な内容・相模原市域旧石器時代遺跡出土の黒曜石産地推定、横山坂遺跡調査資料、上溝丁五号遺跡調査資料、付録黒曜石産地推定データCD-ROM版

市史編さん室事務室・市立博物館・各行政資料コーナーにて販売しています。





## 「町史」のご案内

2007（平成19）年3月11日の合併に伴い、城山町史・藤野町史関係の刊行物の販売を、市史編さん室事務室・市立博物館・各行政資料コーナーにて始めました。

### 津久井町史

- 「津久井町史 資料編 近世1」…2,000円
- 「津久井町の昆虫Ⅰ」…1,700円



### 相模湖町史

- 「相模湖町史 歴史編」…14,000円
- 「相模湖町史 民俗編」（新刊）…5,600円



### 城山町史

- 「城山町史 No.1、3」…各7,000円
- 「城山町史 No.2」…6,000円
- 「城山町史 No.4」…5,150円
- 「城山町史 No.5、6、7」…各3,500円
- 「城山風土記 No.1、3、4、5」…各600円
- 「城山風土記 No.2」…700円
- 「城山町史資料所在目録ー近世文書ー」…3,600円
- 「城山町史資料所在目録ー近現代文書・近世文書補遺ー」…2,900円
- 「城山町史新聞記事目録」…1,200円
- 「町史の窓（復刻版）」…1,100円



### 藤野町史

- 「藤野町史 通史編」…4,000円
- 「藤野町史 資料編上」…3,000円
- 「藤野町史 資料編下」…3,000円
- 「藤野町史 研究史第1号～第5号」  
…各600円



## 市史編さん室の新しいスタッフです

主事（再任用）小林 良司（こばやし りょうじ）

民俗編・文化遺産編、その他市史ノートや編さんだよりなどの副担当になっています。

しばらくは、御迷惑をおかけすることになると思いますが、どうぞよろしくご指導ください。



## 編さん室の動き (3月～4月)

月	日	内 容
3	1	「市史編さんだより第35号」発行、考古編資料調査（県立公文書館）
	12	自然編地形地質分野湧水調査（16・27日ほかにも実施）
	13	文化遺産部会開催
	15	民俗部会開催
	17	市史講演会「日本歴史の中の相模原—前近代を対象に—（2）」開催 講師：神崎彰利特別顧問、参加：129人
		考古部会市内巡検（勝坂遺跡・田名向原遺跡ほか）
	20	自然部会開催
	27	現代資料編資料調査（相模原商工会議所）
	31	近現代部会開催
	随時	現代資料編収集資料の選定・筆耕作業（市史編さん室事務室ほか）
4	6	民俗編市内巡検（大島・上溝地区）
	12	自然編地形地質分野湧水調査（20日ほかにも実施）
	15	民俗部会開催
	24	歴史的公文書の引継ぎ（市役所本庁舎内書庫）
	随時	現代資料編収集資料の選定・筆耕作業（市史編さん室事務室ほか）



以下の刊行物を販売しています。お求めは、市史編さん室・市立博物館・各行政資料コーナーへどうぞ。なお、送料実費負担で配送の取扱いもいたします。

刊行物名	価格	大きさ・ページ数	刊行時期
相模原市史現代図録編	1,500円	A4判・296ページ	平成16年11月
相模原市史第1～7巻	各1,900～4,500円	B5判・598～842ページ	昭和39～47年
相模原市史ノート創刊号～第4号	各350円～700円	A5判・102～127ページ	平成16年～毎年3月
相模原市史調査報告書1	1,400円	A4判・57ページ	平成19年3月

### 「さがみはら市史編さんだより」第36号

発行 2007(平成19)年5月1日

編集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19(市立博物館隣り)

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8039

E-MAIL : shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

ホームページ(右写真) : <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp> (相模原市トップページ)

(市のプロフィール⇒市史編さんについて、または観光・文化⇒市史編さん の順でご覧になれます。)

